

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401806		
法人名	株式会社 ウエルネスヒューマンケア		
事業所名	グループホーム ウエルネスこすもす		
所在地	札幌市手稲区新発寒6条9丁目4-3		
自己評価作成日	平成22年12月19日	評価結果市町村受理日	平成23年7月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401806&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401806&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが本来大切にすべき「認知症であっても普通の暮らしを提供する場所」をご家族様のご協力とご理解を頂き入居者様が孤立しないように支援している。また、認知症について熟練したスタッフを育成する為に、内部、外部の研修でスキルアップするよう努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の静かな住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。広い公園や河川堤防の遊歩道が近くにあり、緑が多く、手稲山の山並みも望める恵まれた環境となっています。建物は共用空間が広く、ログハウス式で木のぬくもりが感じられます。一人ひとりの利用者のアセスメントシートや介護計画が、短い周期できめ細かく作られており、カンファレンスにおける職員意見の反映も優れています。また家族には、毎月のホームだよりの他に個別の様子を詳しく書いたお便りも届けられています。運営推進会議には、多数の家族や地域の方々への参加が得られており、充実した会議となっています。利用者本人にできる範囲で、能力を発揮して頂くよう心がけており、調理や後片付けの手伝いを得たり、トイレの自立支援に繋がっています。近隣のグループホームと情報交換をしたり、職員の研修を計画的に行うなど、サービスの向上に向けた積極的な取り組みが感じられます。職員同士のコミュニケーションも良く、利用者が、安心して穏やかに生活しているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しいスタッフに関しては、理解していないので伝えていく必要がある	「地域に根ざし共にゆったりと安全で健康な生活」という文言を加えた、地域密着型の介護理念を確立しています。理念は玄関などに掲示し共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の方が気軽にホームに来訪されたりボランティアなども受け入れる環境にしたい	町内の祭りや新年会に参加しています。保育園児や幼稚園児がホームを訪れたり、楽器や民謡のボランティアの訪問もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいフェスティバルや運営推進会議に参加していただいている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフにも参加してもらい会議の内容を把握してもらおうようにしたい	会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、消防署、多数の地域関係者や家族が参加し、活発な意見交換がされています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	総務部長が担当係長と連絡を取り指導を受けている。内容によっては管理者も連絡を取り合っている	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しています。感染症問題で保健所に相談したり、市や区の管理者会議で担当者と情報交換をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。ベットの柵についても自立支援の観点から起き上がりのための1点柵のみ使用している。様々な研修に参加し、内部研修をおこなっている	身体拘束の弊害を理解して、ガイドラインを整備しています。勉強会も行い、職員の理解を図っています。玄関は夜間のみ施錠し、利用者の自由な出入りを見守っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加させている。1・2階合同の学習発表会の中で虐待について学んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習会など行っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書について、不安のないよう疑問点について説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席頂いたり、アンケートをとって意見要望を伺っている。	運営推進会議に家族の方々が多数参加しています。ホーム便りや個別のお便りで、情報をきめ細かく提供し、家族からの意見は申し送り時に共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	稟議書を提出し意見を聞いてもらっている。宴会などにも積極的に参加してくれている。お互い意見が言い合える環境にはある	月1回のユニット会議や個別のカンファレンス時に意見交換しています。半年毎の個別面談も行っています。職員が各種の委員会に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不備な点、矛盾点については、来年の課題とし双方が納得する形が出来る努力をして行かなければならない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、その都度管理者の判断で研修費を出す事が出来ている。シフトの支障がないように多くの研修に今後も参加しスキルをあげていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの方を招き「おはぎ」を作った。また、別のグループホームの方と学習会を行った		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の支援を行いながら（食事準備、入浴など）ご本人に直接要望を聞く時間を多く持っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のおたよりやご来訪時、ケアプランのアンケートなどで要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずアセスメントして対応に勤めている。訪問美容・リハビリ・往診医以外の利用なども支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを把握しケアプランを作成し、統一した支援を行っている 食事の準備・掃除も一緒に行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの中にご家族様に協力して頂ける事をお願いしている。また、入居時にはグループホームと他の介護施設との違いについても説明している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とのお手紙やFAXを通じて近況の報告をしたり、お誕生日や冠婚葬祭、季節の行事にも一緒に過ごして頂けるよう支援している	知人や友人の来訪を歓迎し、手紙や電話のやりとりも手伝っています。喫茶店や銭湯、初詣などの希望に応じた個別の外出も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が楽しめるレクリエーションを行い孤立しないように関わりを持っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りや連絡や相談には随時応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を聞きながら、可能な限りプランに盛り込んでいる。また、ご家族様にもご本人の意向に添うかたちでご協力頂いている。	思いを表現するのが難しい方でも、家族の情報や表情から把握しています。アセスメントシートを短期間で更新しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活のリズムを崩さないようアセスメントしている。馴染みの品を持参している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の管理は基より、身体状況に合わせて負担のないよう支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについてのアンケートを通し意見を聞いている。今後はカンファレンスにもご家族様に積極的に参加して頂けるよう働きかけたい	家族アンケートや職員の意見をもとにカンファレンスを行い、介護計画を毎月見直しています。日々の記録も計画を見ながら記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い情報の共有につとめている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリのマッサージをお願いしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物や公園への散歩へ行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望する際は往診時同席して頂いている。往診医を利用されていない方については、受診に同行したり近況をお手紙で知らせている	協力医療機関による2週間に1回の往診を受け、他のかかりつけ医の通院支援も行っています。医療情報を往診ノートや訪問看護記録に記載しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録をノートに記載し、情報を共有し相談にもって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報もあるのでご家族様から情報を頂いているが、入院、退院に関してはソーシャルワーカーと管理者で調整している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については現在学習会等を行い検討している	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応方針」の書面をもとに、ホームの方針を家族に説明しています。重度化した場合の主治医や訪問看護との連携を整備しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度AEDの講習を全員が受けるようにしたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と職員も消防署での講習会に参加している	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署や地域住民の方々との協力体制を築いています。災害時の水や食料等の備品の準備は十分ではありません。	災害時の水や食料、簡易トイレなどの備品の準備を進めるとともに、火災以外の地震、水害発生時における対応の見直しを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについてはスタッフ一同徹底して気を配っている	「さん」づけを基本に、利用者の希望に応じて声かけており、個人別ファイルも適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・レク・食事など混乱ないように工夫した声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの人数や介護経験が浅いスタッフの時は、安全を優先しており希望に添えない事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来るよう声掛けをしている。化粧を日課としている方もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日行っている。メニューも誕生日などは、ご本人の好きなメニューしている	利用者と職員が会話しながら一緒に食事しており、調理や後片付けに利用者が参加しています。畑で採れる食材も使っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がない時は、別メニューにしたり、ケアプランに入れ統一した食事量や味になるよう取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い必要な方には衛生士の指導を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導のチェック表を作り失敗しないように一人一人のリズムを掴むよう支援している	日々排泄状況を記録しパターンを把握して、プライバシーに配慮しながら誘導しています。日中は、極力布パンツを利用する方針で取り組み、一部に改善が見られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を服用しないように、水分摂取量の把握、運動を支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境にしている。拒否が無い限り一日おき入浴をしている	毎日の入浴は可能ですが、利用者が週2回以上入浴できるようにしています。3方向から入れる浴槽を整備し、場合によっては2人介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来るよう、日中は活動的に生活するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに服用薬が確認出来るように、ファイルに入っている。変更があった場合は業務日誌に記入し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、アセスメントを行い個々に合わせたレクリエーションなど支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日、毎日散歩に行っている。行きたい場所については、ご家族様にも協力を頂いている。気分転換にできるだけ外気に触れるようしている。	近くの公園や堤防の遊歩道を散歩するなど、毎日のように出かけています。行事委員会を作り、花見や紅葉狩り、イルミネーション見学などの外出行事も頻繁に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご本人様の希望で預かっている財布は自由に使えるように、ご家族様にも了解して頂き支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜で無い限りご本人様の希望におうじているし、ご家族様も対応して下さっている。FAXでのやり取りもある		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう飾りつけは行っているが幼い環境ではなく家庭である事を把握して行っている	居間及び食堂は窓が大きく開放的で、壁には、利用者の作品や行事での写真が豊富に飾られ、馴染みやすい雰囲気となっています。風呂やトイレも広く清潔です。床暖房により温度も調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスの位置やテーブルの位置に工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に何故馴染みの物が必要なかを理解して頂き、ご家族様に協力をして頂いている。	居室には、テレビやたんす、仏壇など、馴染みの生活用品が持ち込まれ、居心地良く過ごせる場所となっています。壁も自由に飾り付けができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札、トイレ(便所)、浴室には「ゆ」と明記している。また、ご本人様の写真を貼り迷わないよう工夫している		